



## 内部統制勉強会

～ 内部統制に対しXMLはどのように活かせるか ～

2007.05.15

株式会社 NTTデータ  
梅田 申明



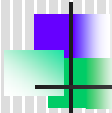
## 勉強会設立の背景と活動目的

- 会社法の施行、J-SOX(金融商品取引法)の成立により内部統制の実現が注目されており、また、そのITによる実現手法にも関心が集まっている。
- 内部統制自体はXMLによって実現されるものではないが、その実現手法の中でXMLを活用することにより、効果的に内部統制を実現できる可能性が秘められていると考える。



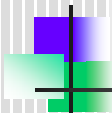
内部統制実現の中でのXML技術適用可能性を検討する

昨年12月1日に第1回勉強会を開始



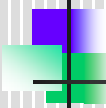
## これまでの活動経緯

- 第1回: 内部統制に関するオーバービュー  
内部統制を支援するITシステム「BPMS」と関連XML技術の紹介
- 第2回: CONTROL2006取り組み紹介(日本オラクル、ディサークル)  
参加メンバの内部統制勉強会に対する思いの意識合わせ
- 第3回: 内部統制タクソノミの紹介(富士通)  
(XMLを活用した理想的な内部統制実現方式の検討)
- 第4回: 内部統制におけるITの利用領域の明確化(1)
- 第5回: 内部統制におけるITの利用領域の明確化(2)
- 第6回: 内部統制におけるITの利用領域の明確化(3)



## 内部統制勉強会の検討スコープ

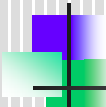
- 当面の内部統制対応は、まずはJ-SOXという現実的な法律対応が優先され、法律の条件をクリアする最低限の実施内容をターゲットとして進められる場合が大半と想定される。  
J-SOX対応そのものは、本勉強会のスコープとはしない
- J-SOXがある程度定着した2009年ごろから2つ目の波が来ることが予想され、本来内部統制として必要な内容を効率的に実現するための検討が進むであろう。  
あるべき内部統制への対応をスコープとする
- 内部統制の目的の一つである業務の効率化を実現するためには、BPMやシステム間連携など業務の効率化やコストの削減につなげる方法が重要であり、これをスコープの中心とする。  
また、これがしたいからXMLを使うという観点での検討とする。



## XML利用可能性の観点

XML適用可能性の観点を整理すると、概ね以下のポイントと考えられる。

- ▶ビジネスプロセスや内部統制の実現に関するツール間をXMLを利用して連携させることにより、各作業プロセスや対策毎の個別対応ではなく、作業プロセスや対策を連携して実現する。
- ▶文書化3点セット(リスクコントロールマトリクス(RCM)、業務フロー、業務記述書)のXMLでのテンプレートを用意する。ただし、大企業向け、中小企業向けなどセグメンテーションを意識する必要あり。
- ▶RCM作成時に、リスクに関するナレッジベースをXMLを活用して組み合わせることにより、リスク抽出漏れの削減、および作業の効率化を実現する。
- ▶XMLのワンデータ・マルチセマンティクスの特徴を活用して、コンプライアンスの観点で必要となる様々な対応の際に、同種の作業を重複して実施しなくてもすむようにする。



## 内部統制に利用可能なXML関連標準

項目	XML関連標準	
内部統制の可視化	戦略・目標	[OMG] BMM (Business Motivation Model)
	組織	[OMG] OSM (Organization Structure Metamodel)
	ビジネスプロセス	[OMG] BPDM (Business Process Definition Metamodel)
	ビジネスルール	[OMG] SVBR (Semantics of Business Vocabulary and Business Rules)
	データ	[OMG] IMM (Information Management Metamodel)
内部統制活動 (ITでの実行)	ビジネスプロセス実行 (BPMS)	[OASIS] WS-BPEL (Web Services Business Process Execution Language) [WfMC] XPD (XML Process Definition Language) [OMG] BPRI (Business Process Runtime Interface) ?
	ビジネスルール実行 (BRMS)	[OMG] PRR (Production Rule Representation)
	ビジネスサービス (Webサービス)	[W3C] WSDL (Web Services Description Language) ...
内部統制モニタリング	KPI監視 (BAM) ・リスク評価 ・統制活動モニタリング ・アラート通知	[OMG] BPRI (Business Process Runtime Interface) ?



## 理想と現実のギャップ

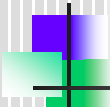
XML Consortium

XMLの適用できそうな観点としてはそう思えるし、使えそうな標準もある、けど。。。具体的にはどうするの？

すべてがXML化されている理想的な環境でないという意味がないのでは？現実の対応はもっと泥臭いところから始まるし、そこから理想論までのステップが見えない。

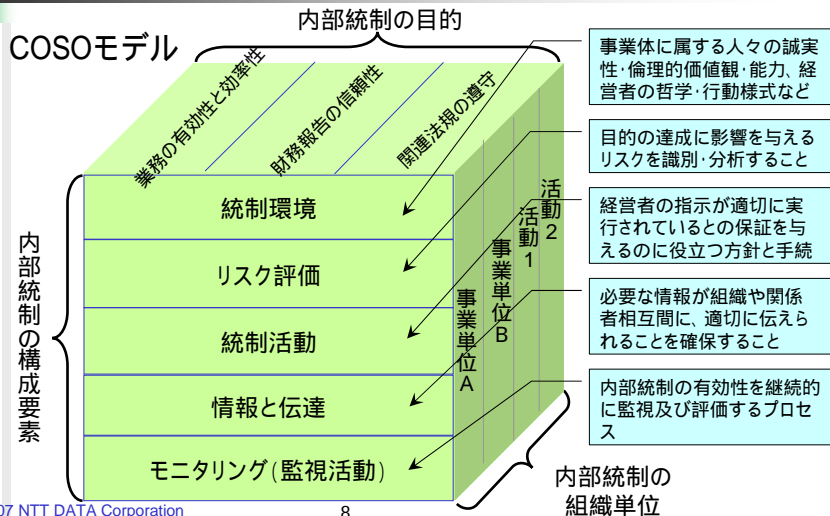


内部統制を実現するというはどういうことで、その中でどこにITが利用できるかをもう一度整理することから始める必要がある。



## 内部統制のためのフレームワーク

XML Consortium



# 内部統制ができていない例

XML Consortium

法令遵守を含む行動規範等が確立されていない、あるいは、行動規範が存在したとしても、経営者自らによる率先垂範と従業員への周知徹底が不足している。

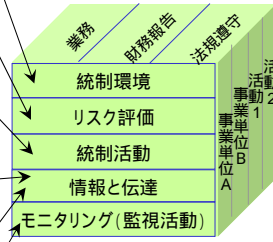
企業価値に影響を与える広範なリスクを特定できていない、あるいは、リスクを認識しても、それに対応するための仕組みを社内に構築できていない。

職務権限に関し、範囲が明確でない、あるいは、適切な牽制が機能していない。このため、特定の従業員が広範な権限や裁量を有している。

通常の業務上の経路以外の情報伝達ルートが存在せず、問題意識を経営者まで伝えることができない。本来、社内で自浄作用を働かせるべき行為が、社外への告発というかたちで、初めて対処・是正される。

事故等が発生した場合の社内及び社外への情報伝達経路が確立していない。

必要な専門性を有し、通常の業務執行部門から独立した内部監査機能が存在しない、あるいは、体制の不備や能力不足、内部監査の重要性への認識の低さ等から、その機能が十分に発揮されていない。



# 文書3点セットとは？

内部統制の有効性評価の対象となる業務プロセスを把握・整理する為、業務プロセスの概要について図表を用いて整理・記録した文書

XML Consortium



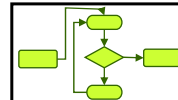
有効性評価の対象となる業務プロセス及び、処理概要等に関して記述した文書。

文書 + 図



業務記述書に記述されたプロセスの詳細をフローチャートで記述したもの。

フローチャート

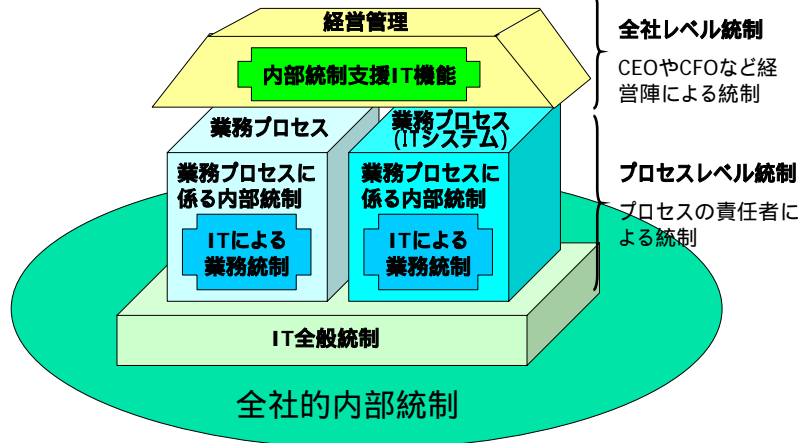


フローチャートで記載された業務フローで発生するリスクに対する対策を記述した表。

表

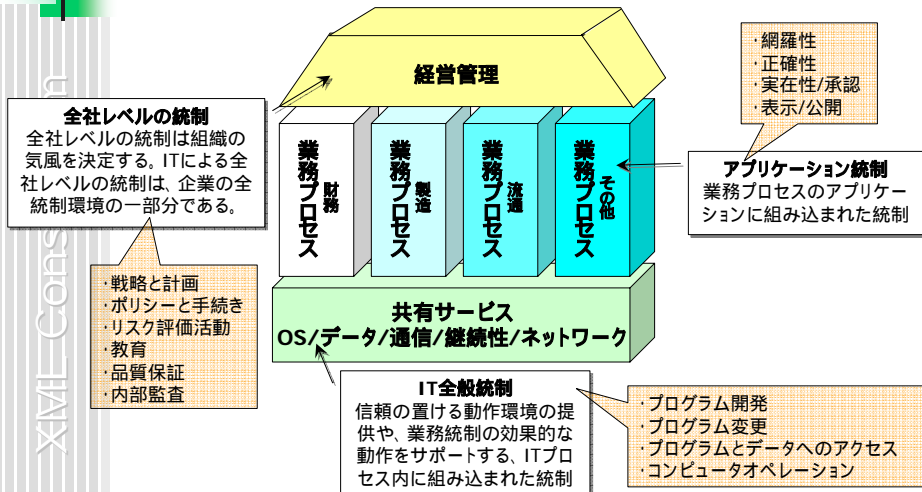

# 内部統制におけるITの位置付け

XML Consortium

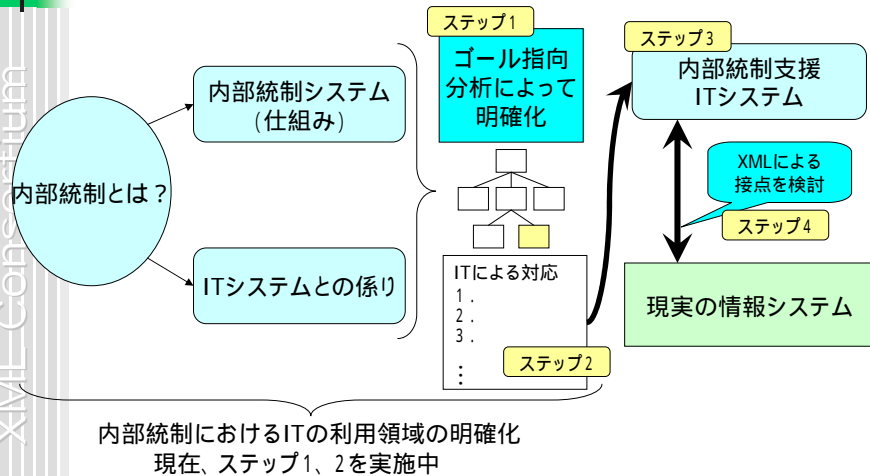


# ITに関する統制の種類

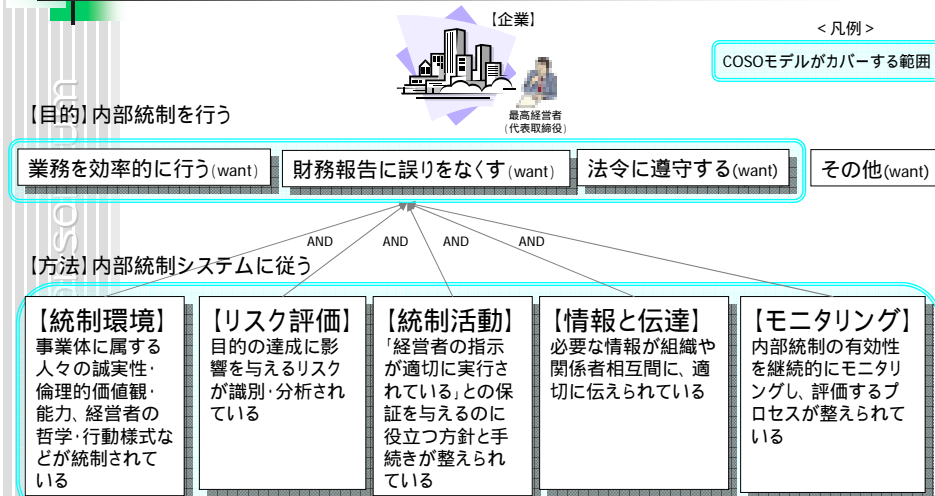
XML Consortium



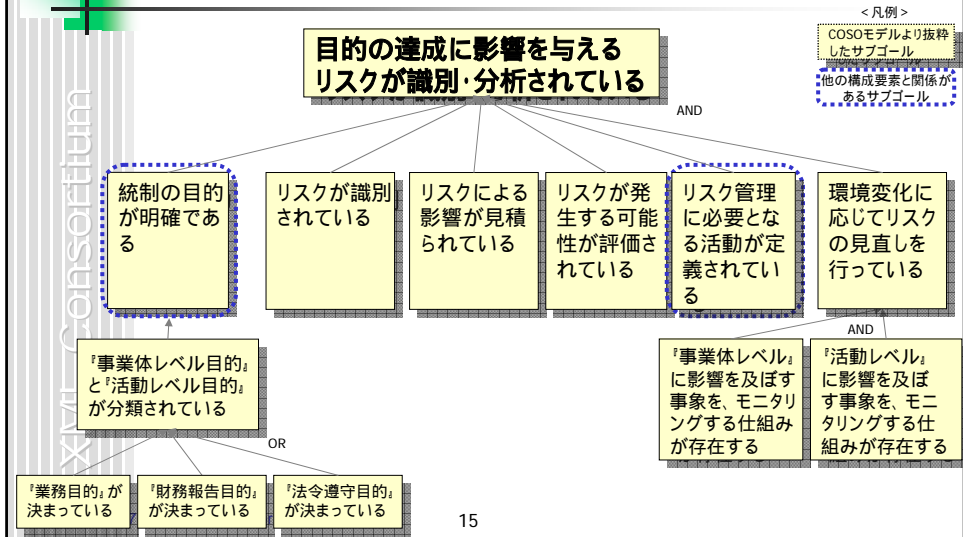
# 全体の関連と検討ステップを整理



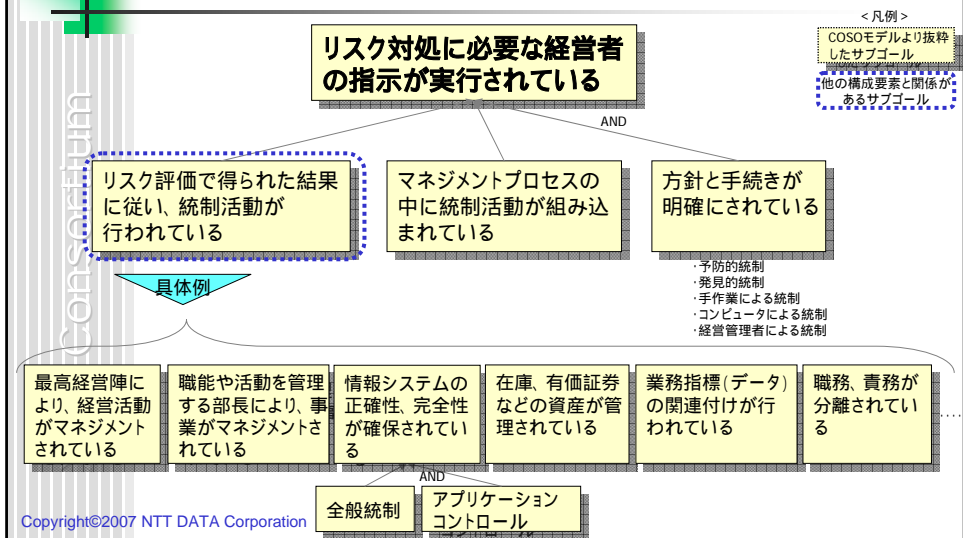
# COSOモデルを用いた内部統制のゴールモデル分析



# 「リスク評価」のゴールモデル分析



# 「統制活動」のゴールモデル分析



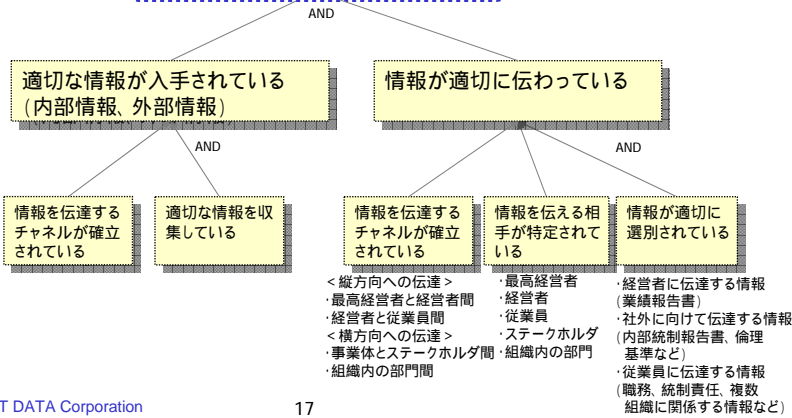


# 「情報と伝達」のゴールモデル分析

XML Consortium

**必要な情報が組織や関係者  
相互間に適切に伝わっている**

< 凡例 >  
 COSOモデルより抜粋  
 したサブゴール  
 他の構成要素と関係が  
 あるサブゴール

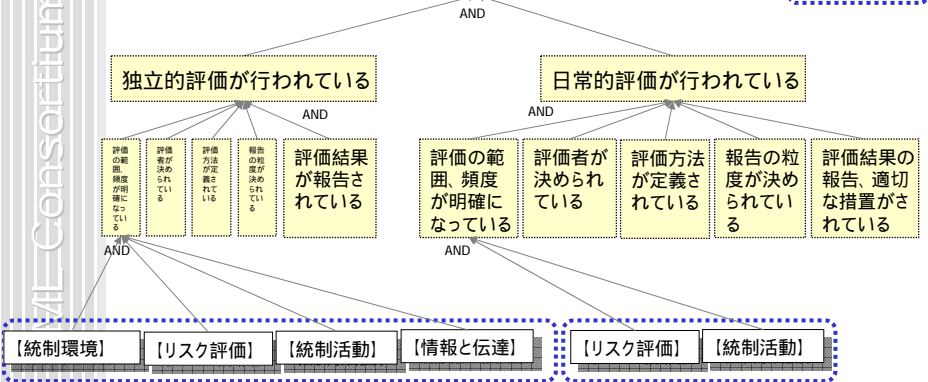


# 「モニタリング」のゴールモデル分析

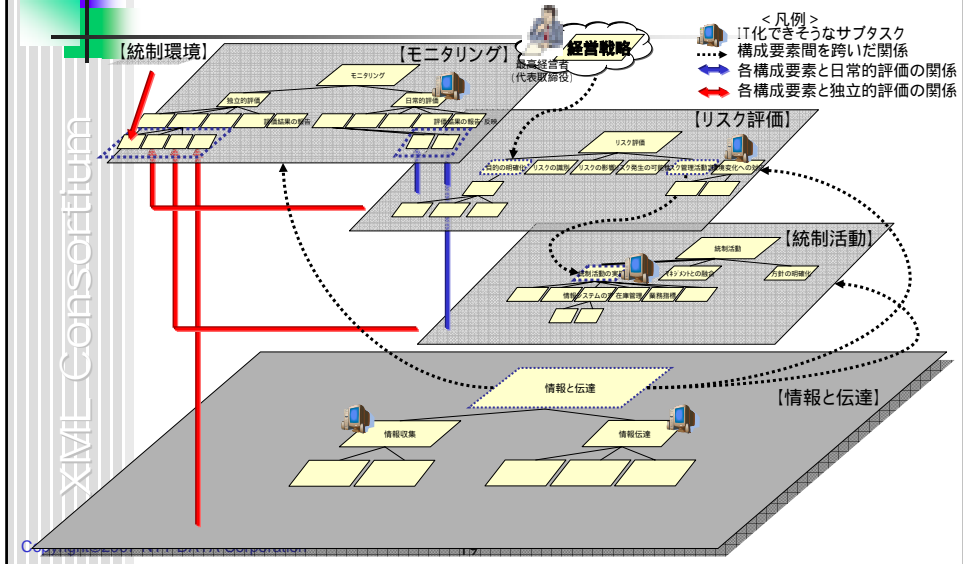
XML Consortium

**内部統制の有効性を継続的に監視、  
評価するプロセスが整備されている**

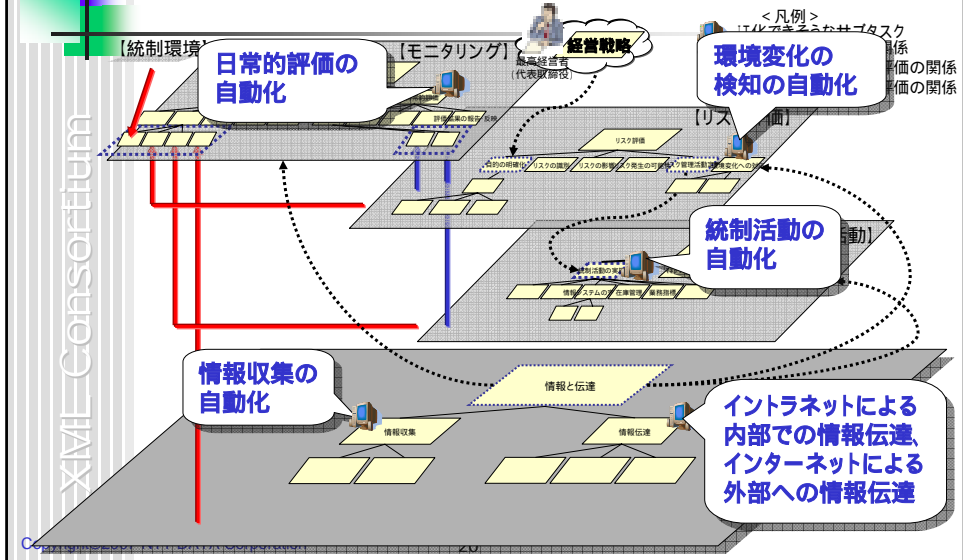
< 凡例 >  
 COSOモデルより抜粋  
 したサブゴール  
 他の構成要素と関係が  
 あるサブゴール

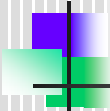


# COSOモデルの構成要素間の関連性

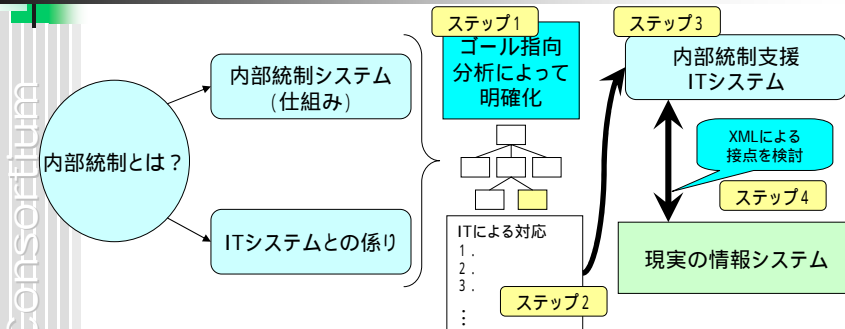


# ITによる対応が可能な内容





# 今後の進め方



- ・ステップ1～3は勉強会として実施
- ・ステップ4は部会として進めることを検討

皆様 (特に、内部統制構築を実施されている方や困っている方、BPM・会計処理・監査に詳しい方) のご参加をお待ちしております。